

【解答例】

一	
問一	a じょうとうしゅだん
問二	記号 エ
問二	作者名 中島敦
問二	記号 サ
問二	作者名 太宰治
問三	鶴は、問題の答えを知っている、正解に至るまで「考えて御覧なさい」と問い続けることとで、保吉を教育したいと考えていたが、答えを出すことよりも答えを出そうと思いを巡らし想像力を働かせる価値には気づいていなかったということ。
問四	傍線部 B 二すじの線の秘密を解き明かそうとして想像力が尽きないことを表す効果。 傍線部 C 二すじの線の秘密が明らかになって落胆する様子を暗示する効果。
問五	考えて答えがわかって問題が解決した気になるよりも、わからないことを考えるうちに現実から遊離して空想を働かせることの方が人生においては価値があり、幸せだということ。
問六	題名（道の上の秘密）・（二すじの線のなぞ）など 理由 鶴と保吉との道の上の二すじの線についての問答を中心に物語が進行し、保吉はわからないことをそのまま秘密（なぞ）とした方が良かったと考えているから。

一一	
問一	a 拾（い）
問一	b 権威
問一	c 往還
問一	d 籠（もって）
問一	e 生涯
問二	名前がないということは、飼猫として人間の所有に帰する存在ではないということなのと。自分で製造していないにも関わらず所有を主張し合う身勝手な関係から自由だということ。
問三	完璧なガラス玉を作ることは不可能でどこかで割り切らないと小島寒月の研究が完成しないのと同様に、この世界を無理矢理にでも人間の価値観で分節化しなければ、茫茫としてとりとめのない状態のまままだということ。
問四	※
問五	※出題ミスにより、正答なし。
問六	夏目漱石
問六	本来何もない大地に恣意的に境界線を引いて他を区別する間に、存
問六	在者の間に不平等が現れたように、境界線を引
問六	か味方の間、国籍や人種、宗教といっ
問六	ち味方の間、国籍や人種、宗教といっ
問六	こちらとあちらとに

問六	問五	問四	問三	問二	問一	四
菅原道真	頸	ア	しらずこのこころいづくにかあんぬせん			イ
わが君はまだ若くていらつしやいますが、それにひきかえ私は、しだいに老境に向かっています。						

問七	問六				問五	問四	問三	問二	問一	三			
伊勢物語・土佐日記		と	家	い	零	七	ウ	A	③ 膝をのばすことさえできなくて気が滅入ってしまうが	② 「あれは何だ」と問うと	行かめ		
		、	族	な	落			オ					
		し	そ	が	し			B					
		み	ろ	ら	て							ア	
		じ	つ	も	都								
		み	て	命	を								
		と	膝	は	追	C							
		感	を	助	わ		ウ						
		謝	の	か	れ								
		す	ば	り	、								
	110	る	し	、	故								
		気	て	今	郷								
		持	眠	こ	へ								
		ち	れ	う	帰								
	。	る	し	る									
		だ	て	船									
		け	狭	旅									
		で	い	で									
		も	家	は									
		幸	で	危									
		せ	は	険									
		な	あ	な									
		こ	る	目									
		と	が	に									
		だ	、	遭									

問六						
	い	差	い	え	一	動
	く	別	く	の	人	す
	こ	を	こ	な	ひ	る
	と	正	と	い	と	に
	が	当	が	魂	り	至
	欠	化	で	を	同	つ
	か	す	き	通	じ	て
	せ	る	る	い	人	い
	な	シ	は	合	間	る
	い	ス	ず	わ	と	。
	と	テ	で	せ	し	私
	い	ム	あ	る	て	た
	う	の	る	こ	お	ち
	思	傲	。	と	互	は
	い	慢	そ	で	い	敵
	。	さ	の	自	を	と
		を	た	由	尊	か
		徹	め	に	重	味
		底	に	平	し	方
		的	は	等	合	の
		に	、	に	い	区
		批	不	共	、	別
		判	平	存	か	な
		し	等	し	け	く
		て	や	て	が	、

2020年 琉大二次試験 国語 講評

現代文が難、古典はやや易

現代文は難化した。付け焼き刃的な学習では打ちできない問題で、読むこと、理解すること、整理してまとめる力が総合的に求められた。大問一は、問六の題名を付けて、その理由までをも述べさせる設問に戸惑った受験生が多かったのではないかと推察される。大問二の問六は、字数指定が240字以上300字以内と多く、設問自体も意欲的な問題で新傾向の問題であった。大問三は古文で、やや易。現代語訳や文法問題は例年通り基礎的な学力を問う問題。問六は和歌の解釈を踏まえたうえで、主人公の心情を文章全体から読み取る力が問われた。大問四は漢文で内容は平易である。ここ数年続いている漢詩文からの出題。押韻や聯の呼称などの基礎的な問題、書き下し文、現代語訳など、例年と同様の設問形式であった。

(山城司)